

日立チャネルSOL

日立チャネルソリューションズ(SOL、東京都品川区、八木鉄也社長)は、新入社員教育の中で持続可能な開発目標(SDGs)を学習するゲームを使ったサステナビリティ(持続可能性)教育を実施している。

取引のあるリサイクル・廃棄物処理業者が、ゲームのファシリテーターを担当。2025年はトーエイ(愛知県東浦町)が「Get The Point」を通じて、SDGsを「26年は加山興業(名古屋市中熱田区)が」の目的だ。

「2030SDGs」のいずれのゲームもSDGsの予備知識はな資源の活用や、環境社会・経済などを良くすることを疑似的にズサステナビリティ推

日本を変える

17Goals

▽
314
△



④チームで議論しながら進める新入社員ら

⑥ゲーム終了後の発表。体験を通じてSDGsを学習



進センタの古結明男セは教えるが、真の目的ンタ長は、「体験を通はあえて伝えていなくて学習するゲームなった」と話す。

ので、ゲームのやり方 同社では社員の意識を説明する際にルール 調査を実施。「自社が

環境の持続可能性に對の回答も、SDGsのして責任を持つて取りゲームを取り入れた後組んでいる」という質の方が肯定的な回答が問に對する若手社員 一層高まった。

（ほぼ新入社員）から 「これだけで判断す

SDGsゲームで身近に

るのは難しいが、新人向けのSDGsゲームと、サステナビリティ教育の効果があつたのでは」と古結センタ長は話す。

日立チャネルソリューションズは22年に「CSR推進部」を「サステナビリティ推進センタ」に改称。これに伴い社員の環境やSDGsに対する意識の向上を検討してきた。環境教育や新人教育の手法について、座学から体験、個人からチームを重視するよう見直すことがSDGsゲームの実施につながった。

今後は自社内でのSDGsゲームのファシリテーターの育成や、他の年代でのサステナビリティ教育とSDGsゲームの実施なども検討していく。